

荒川区職員ボランティア協会 御中

ミャンマー（ビルマ）難民キャンプにおける

教育セクターへの読書推進拡充事業

2015年度 完了報告書



2016年3月



公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会

私たちは向き合います。苦難の中にいる人々と世界に。

1. 事業概要

1. 事業名称：ミャンマー（ビルマ）難民キャンプにおける、教育セクターへの
読書推進拡充事業
2. 協力機関：難民キャンプ委員会、カレン難民委員会教育部会、キャンプ教育部会事務所、
図書館委員会、図書館青年ボランティア
3. ご支援者様名：荒川区職員ボランティア協会 様
4. ご支援金額：800,000円
5. 実施団体：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
6. 事業実施対象地：メラウ難民キャンプ 第3図書館（ミャンマーとタイの国境沿い）
7. 事業実施期間：2015年1月～12月末日
8. 事業受益者：メラウ難民キャンプ第3図書館利用者 24,661（延べ人数）
9. 事業責任者：公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
東京事務所 事務局長 関尚士
海外事業課 難民事業担当 鈴木淳子
ミャンマー（ビルマ）難民 事業事務所 所長 八木澤克昌
事業事務所 所長代行 ジラポーン・ラウィルン
事業マネージャー 菊池礼乃

2. 事業対象地の概況

1984年にタイ国境に難民キャンプが設立されてから、2015年で31年が経ちました。1949年から続くミャンマー（ビルマ）政府軍と少数民族軍との紛争の中で、様々な人権侵害が起り、1970年代半ばから多くの人々が難民となってタイへ逃れ続け、2000年代後半には難民キャンプの人口は15万人を越えるまでに増加しました。2006年頃からは難民の第三国定住が進み、タイとミャンマーの国境沿いにある9カ所の難民キャンプで10万4千人の難民が生活しています。



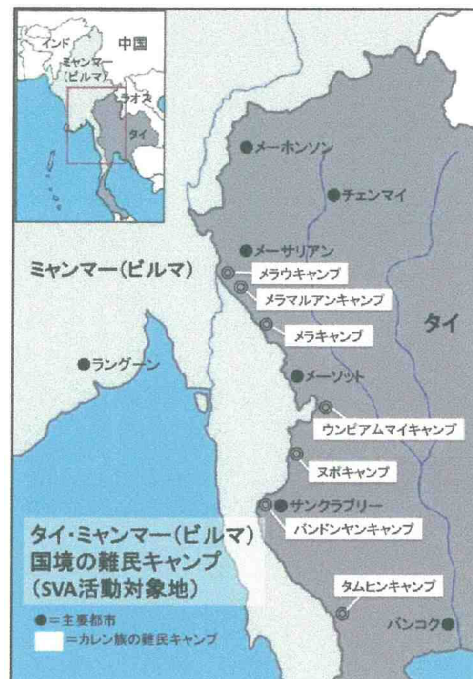
全土停戦協定締結にて握手をするテインセイン大統領と少数民族代表(出典:BBC 2015年10月15日)

近年、ミャンマー国内のテインセインの政権下では、様々な改革が進んでいますが、2015年11月に5年ぶりの総選挙を終え、アウンサンスーチー氏を党首とした国民民主連合が大勝し、2016年には新政権発足がされるなど国内政治において大きな転換点を迎えています。テインセイン政権下で進められてきた主要課題の一つとなっていた少数民族勢力との停戦協定は、2013年から2年近くに渡りミャンマー政府と少数民族勢力の間で議論を重ねられて、昨年2015年10月15日に少数民族勢力15団体中の8団体がミャンマー政府との全土停戦協定を結びました（右上の写真）。

2012年1月にミャンマー政府とカレン民主同盟の間で個別の停戦合意が結ばれて以降、将来的な難民帰還に向けた議論が難民代表や支援関係者の間で進められ、2015年の1年間では、難民帰還に向けた具体的な計画作りが始まりました。この計画には保健・教育・食糧配給・現金支給など各分野での帰還する際の支援内容や移手段も書かれています。また、同年1～5月には、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）とタイの内務省が協働で全9カ所の難民キャンプの人口確認を行い（難民キャンプ人口は約10万6千人）、11歳以上の難民には、現在難民キャンプの滞在者であることと、将来的に帰還する際に支援が受けられることを証明するカードが渡されました。さらに、難民キャンプ内の代表による将来的な帰還候補地の視察が始まっています。このような帰還に向けた動きがある一方で、難民キャンプ内では「現時点では難民が帰還できる状況にはなく、帰還に向けては土地所有、生計手段の確保、社会インフラへのアクセス、地雷撤去など様々な課題がある」との発言も聞かれています。ミャンマー国内で紛争や人権侵害を経験した難民の多くは、未だにミャンマー政府に対する根深い不信感があり、今回の総選挙により発足する新しい政権への期待と同時に不安を感じているという声が多く聞かれています。また、難民キャンプ内では国際支援の減少に伴う食糧配給量の削減や社会サービスの減少が難民の生活に影響を与えており、生活が困窮する中で、難民は間接的に帰還を促されているようだと言及する不安を感じています。

3. ご支援いただいた事業のご報告

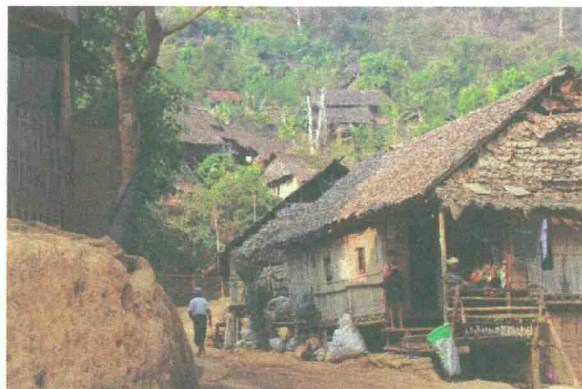
3-1. 対象地の場所 難民キャンプは、ミャンマーとタイの国境に9カ所設置されています。



3-2. 活動の内容

1. 図書館概要

荒川区職員ボランティア協会様には、2015年もメラウ難民キャンプ第3図書館の図書館運営・活動をご支援いただきました。メラウ難民キャンプは、タイ王国のメーホンソン県ソブモエイ郡にあり、ミャンマー（ビルマ）国境から約2kmの非常に近い位置にあります。2004年に周辺の難民キャンプが統合されて設立されたこの難民キャンプには、2015年12月現在、10,283人が生活していて、人口の98%はカレン民族で構成されています。メラウ難民キャンプには4カ所のコミュニティ図書館がありますが、第3図書館はメラウ難民キャンプ内でも教育施設が集中している地域に位置しており、毎日、学校の昼休みや放課後に多くの子どもたちが図書館を訪れ、読書を楽しみました



<メラウ難民キャンプの様子>



<第3コミュニティ図書館>

2. 活動の内容

①日々の図書館活動

コミュニティ図書館での日々の図書館活動として、2015年も継続して子どもたち向けの読み聞かせ活動、青年・成人向けの図書の貸し出しを行いました。コミュニティ図書館には、カレン語とビルマ語で書かれた子どもたち向けの絵本の他に、新聞・雑誌・一般教養図書・学習参考書・小説などの蔵書があり、その数は約 8,000 冊に及びます。毎日、子どもから高齢者まで多くの住民が図書館を訪れており、読書だけでなく、友だちや図書館員や同じコミュニティ内の住民との交流も行われていました。2015 年は、日々の図書館活動に関連して、以下のような成果が報告されています。

毎日、学校の昼休みや放課後に行っているおはなし会において、図書館員が研修で習得した、絵本以外の絵描かれた巻物や人形による読み聞かせを行いました。そのことにより、図書館に来る多くの子どもたちの年齢に合わせた様々な手法によるおはなしを聞かせることができるようになりました。また、図書館に配架されている学習参考書の種類も量も、各学年の授業内容に見合うようになってきたことにより、自主学習用のために図書館を利用する生徒数が多くなりました。同じように、学校教員も頻繁に図書館を訪れており、授業に役立つ図書を選定し、授業の事前準備や、授業の中でそれらの図書を活用しています。

②研修会の実施

2015 年は、以下の 4 種類の研修会を実施しました。

- 1) 図書館関係者向けの図書館運営研修 (8~9 月)、
- 2) 図書館員向けの図書サービスの手法を習得することを目指した研修 (9~10 月)
- 3) 図書館青年ボランティア向けのキャラバン公演方法を学ぶ研修 (5~6 月)、
- 4) 学校教員向けの児童・生徒のための読書推進に関する研修 (7 月)

各研修の成果として、図書館からの情報共有が促進され、日々の図書館活動やイベントが計画通りに実施され、学校への移動図書箱活動が活発になるなど、各活動に表れています。これらの研修では、難民キャンプ内の教育部会に所属する図書館担当が研修講師として参加するセッションもあり、キャンプ内の主体的な図書館運営・実践の形が徐々に作られてきています。

③イベントの開催

研修を受けた図書館青年ボランティアが中心となり、コミュニティ図書館や学校等で読書推進を目的としたイベントを開催しました。2015 年は、子どもの日 (1 月)、母の日 (8 月)、父の日 (12 月)、年に 2 回の読書推進キャラバン公演 (5~6 月、10~11 月)、難民子ども文化祭 (11 月) を開催しました。

これらの読書推進のイベントは、多くの難民キャンプ内の住民が参加するため、読書の楽しさやその価値を伝えるのと同時に、さらに多くの住民に対する図書館の認知を上げるために、図書館の機能や図書館に関わる情報も積極的に伝えました。学校で開催する読書推進キャラバン公演は、図書館から遠い場所に住む子どもたちも参加することができるため、多くの参加がありました。メラウ難民キャンプでは、年2回の公演で、約3,500人の子どもたちが、おはなしの読み聞かせや人形劇を楽しむことができました。

④会議・モニタリングの実施

2015年は、図書館と学校教育の関係者が集まり、難民キャンプでの図書館活動の成果や課題を確認する会議（計画会議1回、四半期会議3回、年次会議1回）が年に5回実施されました。会議で話し合われた主要な成果として、昨年よりも多くの学校が移動図書館を利用していること、教員や学生の図書利用回数が増えたこと、図書館に配架されるミャンマーの図書の種類と量が増えたこと、図書館に設置されたパソコンからもミャンマー国内の最新の情報が提供されるようになり、より多くの住民が情報収集のために図書館を利用するようになったこと、図書館青年ボランティアがイベントだけでなく普段の図書館活動においても図書館員を手伝うようになったことなどが挙げられました。

また、難民キャンプ全体で帰還の準備が加速する中で、難民キャンプ内の図書館関係者からは、図書館活動の将来的な見通しに関する質問も会議の際に多く出てきました。彼らの意見を組み入れながら、図書館事業の将来的な計画を考慮すると同時に、今現在起こっている、第三国定住に伴う図書館や学校関係者の人材流出に対して、各難民キャンプのモニタリング回数を前年以上に増やし、図書館関係職員をサポートする体制を強化しました。

⑤移動図書館活動

絵本や学習参考書の増加により、年々移動図書館活動は盛んになってきています。2015年の学校の移動図書館利用率は最大68%（保育所・小学校:71%、中・高等学校、ポスト高等学校:63%）になり、昨年と比較しても利用率が10%近く増加しました。特に中・高等学校とポスト高等学校の移動図書館利用率は前年までは50%に満たない状況がありましたが、各教科のカリキュラムに合うようにミャンマー国内とタイ国内から合計で6,712冊の学習参考書を購入しました。研修や学校での会議の機会を利用して教員を対象に学習参考書の紹介を積極的に行った結果、教員や学生の間で授業や自主学習における図書の利用が促進されました。これらの学校以外にも、障がい児が通う特別学校や、難民キャンプ内の少数民族の子どもたちが通う私学校、NGO事務所や寺院・教会からも依頼があり、移動図書館活動を実施しています。メラウ難民キャンプは、学校の移動図書館利用率が高い難民キャンプの1つです。

⑥図書の購入・配架

2015 年は、カレン語、ビルマ語の翻訳シールを貼り付けた日本の絵本：4,632 冊、タイの絵本 1,580 冊、シャンティが出版した絵本 3 タイトルのカレン語版 1,000 冊、ビルマ語版 1,000 冊を、カレン系の 7 ヲ所の難民キャンプにある 21 館のコミュニティ図書館と、カレンー民族が主流の 2 ヲ所の難民キャンプに配架しました。カレン語とビルマ語で書かれた絵本は非常に限られているため、これらの絵本に対するニーズは非常に高く、リクエストに基づいて、難民キャンプ内の NGO 事務所や、当会の事務所があるメーソット周辺の移民学校やその他の教育施設にも絵本を配布しました。また、成人の利用者向けの図書として、毎月ビルマ語とカレン語の新聞・雑誌・一般教養書・小説・等各図書館に配架しました。これらの図書については、当会のミャンマー事務所と協働して、2015 年からミャンマー（ビルマ）国内からの購入を開始しています。ビルマ語とカレン語の最新の図書を難民キャンプの図書館に提供することが可能になり、難民キャンプの住民のニーズ応えられる活動が行えています。また、2015 年末にはミャンマー（ビルマ）国内の大学と提携により、より多くのカレン語の一般教養書を入手することができ始めました。難民キャンプでは、多くのカレン語話者によるカレン語図書のニーズが高いため、今後カレン語図書の配架を増やしていく計画です。

3. 図書館利用者数 <メラウ難民キャンプ第 3 図書館の利用者数>

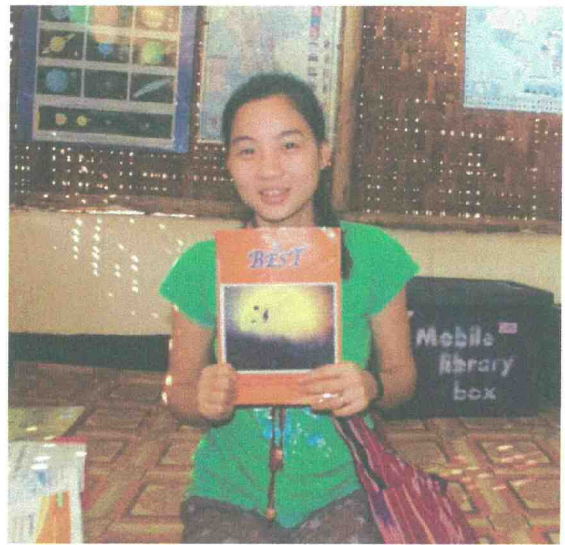
2015 年 1 年間に延べ 24,611 人がメラウ第 3 図書館を利用し、6,128 冊の本が貸し出されました。図書館利用者のうち、約 59%が 17 歳以下の子どもたちです。

| 月 | 4 歳以下 | | | 5-17 歳 | | | 18-59 歳 | | | 60 歳以上 | | | 合計 | 貸出冊数 |
|----|-------|-----|-----|--------|-------|--------|---------|-------|-------|--------|-----|-----|--------|-------|
| | 男子 | 女子 | 小計 | 男子 | 女子 | 小計 | 男性 | 女性 | 小計 | 男性 | 女性 | 小計 | | |
| 1 | 61 | 74 | 135 | 682 | 695 | 1,377 | 388 | 399 | 787 | 11 | 10 | 21 | 2,320 | 563 |
| 2 | 19 | 27 | 46 | 588 | 599 | 1,187 | 420 | 451 | 871 | 8 | 12 | 20 | 2,124 | 420 |
| 3 | 25 | 32 | 57 | 435 | 453 | 888 | 401 | 413 | 814 | 8 | 8 | 16 | 1,775 | 612 |
| 4 | 25 | 33 | 58 | 487 | 511 | 998 | 400 | 426 | 826 | 10 | 8 | 18 | 1,900 | 542 |
| 5 | 22 | 25 | 47 | 541 | 522 | 1,063 | 482 | 487 | 969 | 13 | 12 | 25 | 2,104 | 577 |
| 6 | 31 | 39 | 70 | 758 | 766 | 1,524 | 433 | 444 | 877 | 14 | 13 | 27 | 2,498 | 426 |
| 7 | 35 | 34 | 69 | 860 | 877 | 1,737 | 537 | 549 | 1,086 | 10 | 12 | 22 | 2,914 | 638 |
| 8 | 37 | 40 | 77 | 542 | 592 | 1,134 | 390 | 433 | 823 | 6 | 9 | 15 | 2,049 | 425 |
| 9 | 20 | 27 | 47 | 644 | 652 | 1,296 | 526 | 565 | 1,091 | 8 | 10 | 18 | 2,452 | 669 |
| 10 | 27 | 31 | 58 | 706 | 727 | 1,433 | 427 | 457 | 884 | 14 | 12 | 26 | 2,401 | 671 |
| 11 | 9 | 11 | 20 | 195 | 206 | 401 | 137 | 142 | 279 | 2 | 4 | 6 | 706 | 206 |
| 12 | 34 | 37 | 71 | 347 | 370 | 717 | 270 | 293 | 563 | 8 | 9 | 17 | 1,368 | 379 |
| 合計 | 345 | 410 | 755 | 6,785 | 6,970 | 13,755 | 4,811 | 5,059 | 9,870 | 112 | 119 | 231 | 24,611 | 6,128 |

4. 図書館利用者の声

ポー・ラ・ラさん 20歳 教員 メラウ難民キャンプ、教員

私は3人兄弟で、両親と共に暮らしています。自由な時間がある時は、本や雑誌を読みたいので、図書館にはほとんど毎日通っています。たくさんの知識を得ることができるので図書館の存在を大変ありがたく思っています。私はここに来ると、「ザ・ベスト イングリッシュ」や「トップ」（共に、英語の雑誌）をよく読みます。なぜなら、これらの雑誌は英語で書かれているため、英語力の向上に役立つからです。そして、特に私は「トップ」を読むことを皆に勧めています。この雑誌を読むと英語だけでなく一般教養に関する知識を習得することもできます。私の将来の夢は看護師です。



この図書館をご支援して下さっている荒川区職員ボランティア協会の皆さまには大変感謝をしております。ご機会がありましたら、是非ご支援者の方々にも難民キャンプを訪れていただきたいと思います。

ワ・エ・ポーちゃん 6歳 小学校2年生、メラウ難民キャンプ

私は3人兄弟で、両親と一緒に暮らしています。家では洗濯や掃除の手伝いをしています。自由な時間があると、図書館へ行ったり、友達とゴム跳びをして遊びます。学校へ行くのが好きで、科目ではカレン語の勉強が特に好きです。なぜなら、自分たちの言葉であるカレン語を大事にしたいからです。図書館へは毎日通っていて、読み聞かせを聞くのを楽しみにしています。私が一番好きな本は「おおきなかぶ」です。このおはなしを読むときは、皆で物語を実際に動いて表現するから特に楽しいです。もちろん文字を読む練習ができるので、1人で読書をする時間も好きです。



私は図書館員の人たちが大好きです。皆やさしいですし、毎回図書館での活動の準備を入念にしてくれます。私の将来の夢は看護師です。日本の荒川区職員ボランティア協会の皆さまにはとても感謝をしています。ありがとうございます。

5. 写真報告



図書館にて絵本を手に取るお母さん



図書館にて読書やお絵かきを楽しむ子どもたち



図書館員によるおはなし会の様子



図書館関係者が図書館サービス研修を受けている様子



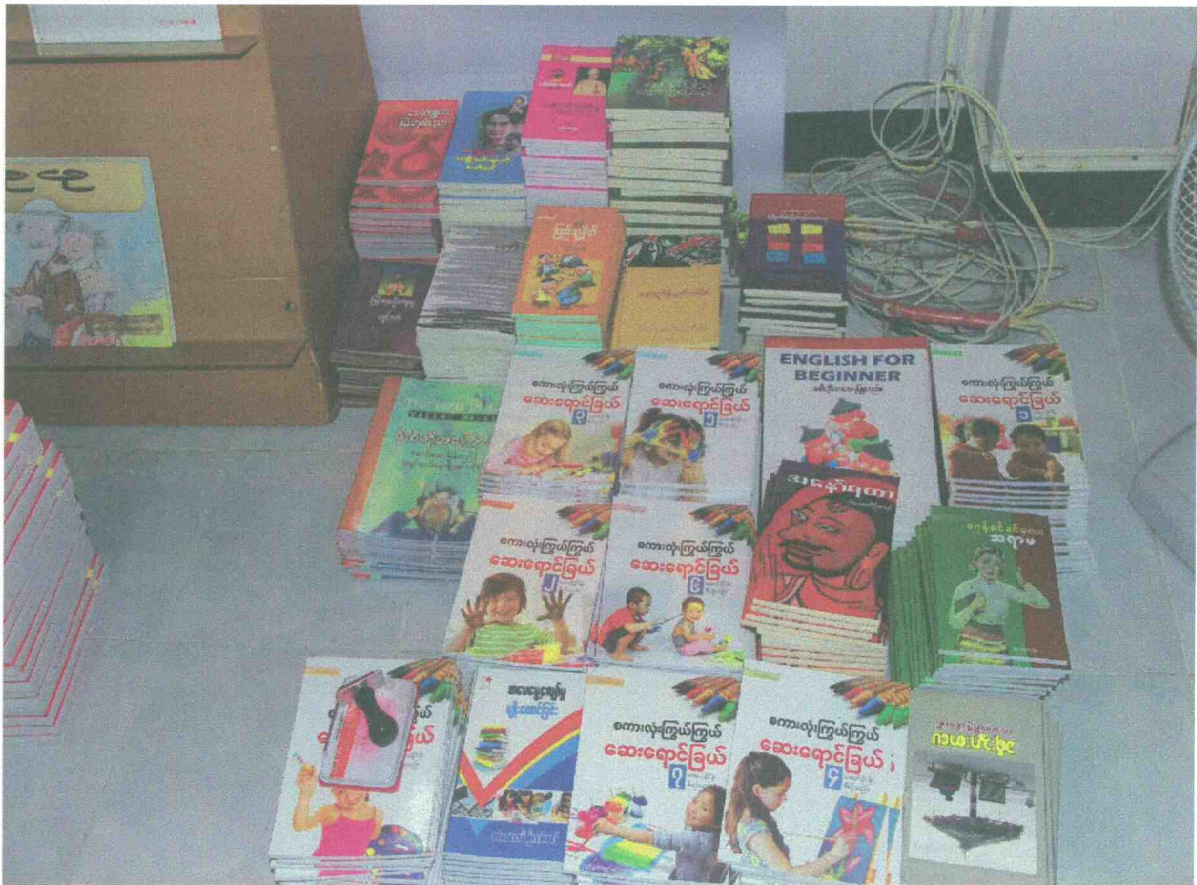
図書館青年ボランティアがキャラバン公演研修を受けている様子



図書館での四半期会議



メラウ難民キャンプで行われた母の日イベントの様子



ミャンマーから購入した図書の配架準備



メラウ難民キャンプ第3図書館に掲示されたご支援者プレート



荒川区職員ボランティア協会の皆さま、ご支援ありがとうございました！

4. 図書館利用者の声

ポー・ラ・ラさん 20歳 教員 メラウ難民キャンプ、教員

私は3人兄弟で、両親と共に暮らしています。自由な時間がある時は、本や雑誌を読みたいので、図書館にはほとんど毎日通っています。たくさん知識を得ることができるので図書館の存在を大変ありがたく思っています。私はここに来ると、「ザ・ベスト イングリッシュ」や「トップ」（共に、英語の雑誌）をよく読みます。なぜなら、これらの雑誌は英語で書かれているため、英語力の向上に役立つからです。そして、特に私は「トップ」を読むことを皆に勧めています。この雑誌を読むと英語だけでなく一般教養に関する知識を習得することもできます。私の将来の夢は看護師です。



この図書館をご支援して下さっている荒川区職員ボランティア協会の皆さまには大変感謝をしております。ご機会がありましたら、是非ご支援者の方々にも難民キャンプを訪れていただきたいと思っております。

ワ・エ・ポーちゃん 6歳 小学校2年生、メラウ難民キャンプ

私は3人兄弟で、両親と一緒に暮らしています。家では洗濯や掃除の手伝いをしています。自由な時間があると、図書館へ行ったり、友達とゴム跳びをして遊びます。学校へ行くのが好きで、科目ではカレン語の勉強が特に好きです。なぜなら、自分たちの言葉であるカレン語を大事にしたいからです。図書館へは毎日通っていて、読み聞かせを聞くのを楽しみにしています。私が一番好きな本は「おおきなかぶ」です。このおはなしを読むときは、皆で物語を実際に動いて表現するから特に楽しいです。もちろん文字を読む練習ができるので、1人で読書をする時間も好きです。



私は図書館員の人たちが大好きです。皆やさしいですし、毎回図書館での活動の準備を入念にしてくれます。私の将来の夢は看護師です。日本の荒川区職員ボランティア協会の皆さまにはとても感謝をしています。ありがとうございます。

(掲載本 福音館書店「おおきなかぶ」)